

令和2年度 第12回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和2年11月26日(木)

2 会議の場所

名取市役所 6階会議室(西側)

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、鈴木理事兼学校教育課長事務取扱、大友教育部次長兼教育総務課長、大澤生涯学習課長、小松文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室長兼市史編さん準備室長、加藤こども支援課長、黒川指導主事、齋藤教育部企画員兼教育総務課長補佐、宇田教育総務課主幹兼教育総務係長

7 議題

(1) GIGAスクール構想の取り組みについて

(2) 下増田公民館と下増田児童センターを合築のうえ移転改築することについて

8 開会時間

午後1時30分

9 会議の概要

大友教育部次長兼教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に入ります前に、用意いたしました資料の確認をさせていただきます。1枚ものの、「第12回名取市総合教育会議次第」と、クリップ止めしております「第12回名取市総合教育会議資料」の2つを用意しております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ第12回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、11月になり新型コロナウイルス感染による影響は、全国的に罹患者数が増加するなど猛威をふるっております。本市においても一部の学校で臨時休業措置をとらざるを得ないなど、支障が出始めております。

このような中、これから忘年会・新年会の時期を迎えますが、年末年始におきましても大人数での飲食を控え、マスクの着用や手洗いを励行し、三密を避ける対応など、拡大させない取り組みが求められます。

本日の総合教育会議のテーマは、文科省が主導する「GIGAスクール構想の本市の取り組みについて」と「下増田公民館と下増田児童センターを合築のうえ移転改築することについて」としました。いずれのテーマもこれからの名取の教育に必要な施策と考えております。

本日は、委員の皆様方から忌憚のないご意見を賜り、今後の教育行政、さらには市政発展のための方策とさせていただきたいと考えております。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきたいと思っております。

大友教育部次長兼教育総務課長

それでは、3の議題に入っております。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めていただきます。山田市長、よろしく願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしく願いいたします。

まず初めに、議題(1)GIGAスクール構想の取り組みについてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

鈴木理事兼学校教育課長事務取扱

学校教育課長の鈴木です。それでは、資料に基づき、GIGAスクール構想について説明させていただきます。

本日、学校教育課から説明を申し上げるのは3点、まずはこの概要の説明、2つ目が後ろにありますモニターでの、授業の様子を視聴、3つ目として、iPadを皆様方にお使いいただくという内容を考えております。

まず、GIGAスクール構想の内容につきまして、資料に基づきましてご説明させていただきます。

1点目でございますが、すでにご承知のことと思っておりますが、GIGAスクール構想について、これは国が進める事業でございます。1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備しながら、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する、その上で教師・児童生徒の力を最大限に発揮することがねらいとなっております。

2点目のスケジュール、経過ですが、そこに記載のあるものの他、現時点でiPadは既に7校が導入済みであります。LAN工事につきましては6校が11月末現在で済みであります。今後、計画に従ってiPadについては12月18日まで、LAN工事については2月の中旬まで順調に進んでいるところです。

3点目、機器については、お示ししているとおりの機器が導入されております。iPadを有効に活用するための大型提示装置、転送のためのAPPLE TVにつきましては、先日の議会でお認めをいただいたところです。

4点目、教員の研究につきまして、11月25日、昨日予定をしておりましたiPadの活用研究、こちらについては授業を公開する予定としておりました。既に平成28年に行われましたモデル事業、ゆりが丘小学校での実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症のため中止とさせていただきます。教員・子供も、授業の準備をしていたということもあり、昨日、学校教育課でビデオ撮影に行っていました。後ほど、テレビ画面でその様子をご覧ください。また、このビデオについては、公開授業はできなかったのですが、何らかの形で共有をしていきたいと考えております。

5点目です。児童への指導につきましては、既にタブレットの使用規定、使うときの約束を各学校に周知しております。これも、現場の声を聴きながら微調整していきたいと考えております。

6、7点目、これについては、実際の授業の活用場面ということで、指導主事からビデオを視聴しながらの説明となります。

黒川指導主事

私の方から、6点目のゆりが丘小学校のモデル事業、7点目の学校での活用の様子について、映像をご確認いただきながら説明をさせていただきます。なお、授業の様子ですが、1年生は教師が主にiPadを活用する授業となっております。3年生は児童がお互いに動画を取り合い、一人一人が見直しをする授業、6年生は共同でアイデアを出し合いながら、個別で考えたことを、最終的には共同で意見をまとめていく授業です。ICTの活用とあるものの、最初のGIGAスクール構想でありましたとおり、最先端のICTと、これまでの教育実践の良さを合わせ、ハイブリッドでの活用を考えております。

テレビ画面をご覧ください。閑上小中学校の様子がニュースで取り上げられたものです。

(GIGA スクール構想によりタブレットを配布し授業を行ったニュースをテレビで視聴)

黒川指導主事

ご覧のように、児童が自分の興味に応じた場面を繰り返し見たり、画像を見てスケッチするという授業です。

次に、昨日行われたゆりが丘小学校で行われた授業の様子です。

(テレビ画面でゆりが丘小学校 1 年生算数の授業の様子を視聴)

黒川指導主事

1 年生は算数の授業で使われております。数字を数えながら、先生が絵を消してっていきます。実は、子供が誤答しているのですが、それをみんなで確かめようとしています。

続きまして、1 年生の授業の後半の部分です。子供のノートを画面に映しています。これまでに学習したことを、右側に戻してまとめてあるのですが、そのようなアナログな部分と、デジタルの部分、いい部分を取りながら進めています。

最後、1 年生の問題を出し合うところです。この部分は、今までもあった学び方ですが、ICT のいいところを生かした形で授業に取り入れております。

続きまして、3 年生の体育の授業です。

(テレビ画面でゆりが丘小学校 3 年生体育の授業の様子を視聴)

黒川指導主事

これは、お手本の動画を見ているところです。開脚前転です。この後、お互いに動画を撮り合い、自分の動画をチェックします。児童同士が動きを確認しあって、動きに反映させていくというような授業を行っております。

続いて、6 年生の授業になります。

(テレビ画面でゆりが丘小学校 6 年生の社会の授業の様子を視聴)

黒川指導主事

自分の意見を iPad に書き込みます。書き終わった後、画面の全体を表示することにより、友達みんなの考えが同時に共有できます。今、赤い線が描かれたのですが、自分ではない誰かが、自分と同じ意見の部分に赤い線を引いて、まとめのほうに集約していく作業です。

続いて、発表場面ですが、グループでまとめたものを黒板に映し出して、グループの最終的なまとめと対比させてプロセスを確認するような場面です。個別学習と共同学習のいいところを合わせております。

最後に、もうひと画面動画がありますが、お手元の iPad に動画を送りますのでご覧ください

ださい。今から送りますので、「受け入れる」というところを押していただくと、ジャムボードというアプリにGsuiteが入っております。同時に5人が書けば、5人の画面が同時に反映されております。これで、友達の考えを参照することができます。実際に自分が書く時には、自分の考えを書いて、縮小すると友達の考えを確認することができます。もちろん、紙の良さもあるのですが、作業が同時にできる点、必要な時にそれが切り替えられる点というのは優れている部分です。

私からは以上です。

山田市長

ありがとうございます。閑上小中及びゆりが丘小学校での様子を説明いただきました。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、ご感想などあれば、お願いします。

浅野委員お願いします。

浅野委員

ゆりが丘小学校は平成28年から全学年モデル授業で行っているということで、子供たちも手慣れた感じすごいな、と思います。すごい時代なんだな、ということと、最初、こういうものが学校に導入されると伺ったときに、目に悪いのでは、とか、色々な心配の意見もありましたが、時代には抗えないところはあるし、若い人たちが作っていく世の中なので、古い人達は見守るしかないのかな、と思います。自分はいろいろな心配もありますが、今の保護者の方々は十分に必要性を理解して、保護者の方々も若いうちからスマートフォンを利用している年代になってきていることを思うと、授業の進め方や、社会に出ていく準備というのは、すでにこれがないとできないので、慣れていかなければならないと思います。これから他の学校の子供たちが手にするわけですが、問題なくいけるのだろうと思いました。

山田市長

子供たちは、本当に慣れていて、我々が思うよりもっと早く順応しているように感じられました。今いただいた、時代に合ったやり方、これまでの教育実践と、最先端のベストミックスと資料がありますが、確かに、そういったものなのだな、と感じます。

洞口委員どうでしょうか。

洞口委員

やはり、今小中学校のお子様を持つ父兄はネットワークの時代になっておりますので、子供たちには一層取り組んでいただければいいかな、と思います。

私たちの時代でもありますが、黒板とチョークだけでは伝えられないこともないわけではないと思います。iPadを利用することにより、例えば理科・科学の授業で、ちょうちょうが飛ぶ姿の動き、それから、果物、野菜を切った断面など、今までの教科書でもありましたが、もっと深く学べるのではないかと感じました。下手すると匂いまでもiPadで感じ

ることができるようになるのではと思いました。とても期待はあります。

山田市長

そうですね。動画ならではの動きの確認などですね。ありがとうございます。

荒井委員はいかがでしょうか。

荒井委員

資料というか、教材の提示装置として、新たな i P a d の利用の可能性を見せていただきました。それはそれでとても大事なことだと思います。もう一点、こういうものを使う目標があると思っていて、情報の検索や、コミュニケーションのツールとしての利用、現在、大人たちが常に使っているところについて、子供たちに考えさせたり、その上で必要な部分を学んでいく、というところが今後の課題だと思っております。

山田市長

これからの時代に実践できる教育ということですよ。こういったものを柔軟に使って、実際の社会でコミュニケーションツールとして使っていくための教育ということですよ。

荒井委員

はい、それと、クリティカルシンキングというか、世の中にあふれている情報の信ぴょう性というものをどう評価していくかということが課題だと思います。

山田市長

課題の話も出ておりましたが、GIGA スクール構想の取り組みについて、これからの課題やご意見等があれば佐藤委員からお願いします。

佐藤職務代行委員

先ほどの授業についての質問です。6年生の場面で、スクリーンに映していましたが、左側にホワイトボードにまとめていましたが、それは手書きで書いているものなのでしょうか。

黒川指導主事

はい。そうです。それは、i P a d の情報をもとに相談し、それでまとまったものをホワイトボードに書いているというものです。

佐藤職務代行委員

その作業はどんなのかな、と思いました。それから、i P a d に書き入れたものは画像として保存され、自分の手元に常にあって、それを見ながら自分の考えをまとめるという作業はやったのでしょうか。それともこれからやるのでしょうか。

黒川指導主事

個人のまとめまではその授業ではやりませんでした。グループのまとめまでです。

山田市長

何か課題があるのでしょうか。

佐藤職務代行委員

2018年に行った調査によると、日本のICT活用状況は51か国中51というデータがあります。それは、授業の建付けが変わらない限りはずっとそのままではないのかと思います。というのは、1年生の授業は、答えが一つに決まっているものにみんなに向かっていくという授業なのです。そのような授業をiPadでやっても、何も変わらないのではないかと思います。一つの考えからいろいろな方向に向かって行って、個々人が自由に発想してまとめていいよ、というような、オープンな授業の造りであればいいのですが、そうでない、ただのツールにしか過ぎないということは押さえておかなければならない。6年の社会も同じで、自由民権運動についてのまとめなのですが、基本的に皆同じ方向に教員が持って行って、このような運動だったね、と教員がまとめるのですが、そういう授業のあり方はもう変えていかないと、一つの結論出す、正しい結論を出す、という時代ではないので、それを破るためのツールであるということを知って活用する方向に行かないとダメなのではないかと思えます。あとは、一人一人が持っている意味というのが、どの程度あるのかな、というところが分かりません。今はグループで活用しており、それで十分なのではと感じました。一人1台持つというのは、今回の一斉休業とか、そういう場合のリモート授業とか、そういう時に初めて活躍できるのではないかということがあります。普段の授業で無理に小学校で使うというのを納得しなければならないということではないな、ということは頭に入れておかなければならないな、と思いました。

山田市長

まず、一つの正しい結論を導くというあり方ではない授業のあり方、もっとオープンな授業の形が必要なのではないかということと、一人1台を持つ意味、今のやり方であればそこまでは必要ではないのではないかというご意見でした。

これについて、教育長はどのようにお考えでしょうか。

瀧澤教育長

少し観点がずれるかもしれませんが、授業の形として、佐藤委員がおっしゃったように、どうしても先生は教えたがりますし、正解に導く、誘導していくという授業は多いと思います。ただ、中身によっては、そういうように一つのことをみんなできちんと理解する、という授業もあると思うし、無理やり先生の考えに引っ張っていかないで、子供たちの自由な発想をそのまま出させて、それを広げていくという授業も必要だと思います。ただ、全体的に日本の教育では、どちらかと言えば決まったことを子供に歩かせて結論まで到達させる、そ

こについてこれない子をなんとか引っ張っていく、というスタイルが多かったので、そこは授業の改善としてこれからやっていかなければならないところかな、という感じはあります。

それから、一人1台ということについて、実際使う場面では、必ずしも全員持っていなくても、グループに1台あれば済むようなスタイルの授業があると思います。ただ、今回 GIGA スクール構想で一人1台の端末が準備できるということから、一人一人が i P a d というツールに慣れて、使いこなしていくというような段階をどこかで踏めば、あとは必要に応じて全員に使わせたり、グループに使わせたり、そういう形に持っていけるのではないかと思います。

山田市長

そうですね。授業の内容によっては全員で使う場面も必要になってくると思いますので。逆に、そのようなことも模索しながら進めていただきたい。無用の長物にならないように、あるから使わなければならないではなく、使わなくて済む場面であれば、今のようにグループで使用するなど、そういうことはあってもいいと思います。

瀧澤教育長

昨日の授業についてですが、中止が決定したのはお昼前でした。授業を行った3人の先生は何日も前から準備して、本当にショックだったと思います。昨日、夕方4時頃ゆりが丘小学校に行って、授業者の先生たちと話をしてきました。まずはお詫びを申し上げました。授業のことについても、資料はいただいていたので少しお話したのですが、i P a d を使用する利点として、3人の先生が同じように挙げていたのが、子供たちの食いつきがいい、ということですね。6年生の、先ほどの意見をまとめるというところで、今までは付箋に一人一人の考えを書いて張り出してそれをまとめていくという、アナログな手法と比べてどうか、という話をしました。私は、アナログなものも忘れてはならないという思いもありますので。ただ、6年生の先生の感想として、下位群の子にとっては、i P a d を使った授業の方が参加しやすいのではないか、という話をしていました。先ほどの説明にあったように、今までは教材をかなりの時間かけて先生が準備していたのが、瞬時に準備できることや、即時性があり、今やったことをその場で複数で確認できるという良さもあると思いますが、昨日の先生方に最後にお話をしたのは、i P a d は非常に素晴らしいツールですが、ただし、授業のねらい、どのように組み立てて、子供たちにそこで何を学ばせたり、何を考えさせるかというところをしっかりと組み立てておかないと、i P a d を使っただけの授業になってしまうので、どういった場面で使うのが効果的なのか、あるいは、ある場面ではアナログの良さもきちんと子供たちに授業の中で掴ませていく必要があるのではないかと思います。韓国は大分前から、一人1台のi P a d で授業をしていたけれど、最近は少し見直しているという話も聞いております。韓国は最初、ほとんどの授業でi P a d を使用していたのですが、思考力が伸びない、というようなマイナス面が出てきたという事です。どのような場面で使うかというところを、先生がきちんと押さえて活用していくことが必要だと思いました。ただし、ゆりが丘は、28年度からやっているのでも、子供も先生も使いこなせているな、という感じはしました。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。確かに、単なるツールで終わらせてはいけません。より有効に、どのように使うのか、ということだと思います。

では、今、ゆりが丘の方の授業の様子を見て、感想なりご意見なりをいただきましたが、今後の、もう少し大きな視点で GIGA スクール構想についての課題やご意見があれば、一部出ておりますが、改めてお伺いしたいと思います。

洞口委員お願いします。

洞口委員

長い間休んでいる子供たちのケアを、i P a d を利用してどのようにケアしていくのかということで、考えがあれば聞いてみたいと思います。

山田市長

なるほど。では、今、不登校で学校に来ていない子供たちに対して、i P a d なりを活用した取り組みについて、今現在の考えがあれば教えてください。

黒川指導主事

i P a d を持ち帰ることは検討している段階ですが、県が進めている Gsuite、これは一人一人にアカウントがありまして、家で自分の端末やパソコンなどで、クラスでのグループでの連絡を取ったり、課題を届けたり、課題を先生にフィードバックできる機能がありますので、まずはその辺を活用できないかと考えています。

山田市長

Gsuite ですか。それがあれば具体的に何ができるのかももう少しお願いします。

黒川指導主事

クラウドを使って、classroom みんなで、オンライン上のクラスを作り、一斉に課題を送信したり、個別にメッセージを送ったりもできます。また、Gsuite にはテレビ会議の機能もありますので、すぐにそれで授業とは難しいとは思いますが、場合によってはそういった活用ができるという事です。

山田市長

それでは、学校にいる子と、家にいる子がクラウド上で同じ環境で情報のやり取りができるという事でしょうか。授業をすべてというのは難しいのですが、課題を送るなど是可以のできるのでしょうか。

黒川指導主事

メッセージだけの送信になるかもしれませんが、課題の送信になるかもしれませんが、できることを検討したいと思っております。

山田市長

イメージがわきましたでしょうか。

洞口委員

授業は置きまして、友達メッセージが発信できて、不登校の子供たちに届けば、もしかしたら登校したくなるかもしれないな、と思ったのです。授業だけではなくて、そういう活用もあるといいのかなと思いました。

山田市長

なるほど。授業でノートを取ったものを送るなどの活用ですかね。そのあたりはいかがでしょうか。

黒川指導主事

素晴らしいアイデアだと思います。ノートを画像で送るだけでも大分雰囲気は伝わるかと思っています。

洞口委員

もしかしたら、登校したくなる子が出てくると思います。

山田市長

画期的なご意見をいただきましたので、ご検討いただきたいと思えます。
そのほかご意見等ありますでしょうか。

荒井委員

今整備中の話で、先の心配となるのですが、いずれ更新が必要と思えますが、その時は国から予算が来ることはないと思うのですが、どうするのかと心配していました。

山田市長

教育委員会として今のお考えはいかがでしょうか。

教育部長

基本的には、壊れるまで使い、壊れたら更新し、新しいものを渡すと考えております。

山田市長

先の将来ということまで設定して導入していない部分もありますので、1回目、2回目、3

回目ぐらいなら補助金が付くかもしれませんが、将来にわたってずっと出してくれるのかという課題もありますし、そもそも今の機種で、いつまで対応できるのか、それ自体が対応できなくなって、全て更新が必要、という可能性もあります。私としては、せっかく導入するので、先ほど佐藤委員からいただいた意見を踏まえて、本当に必要なのかとか、より有効な活用方法とか、それによっていろいろな課題があると思います。先ほどの、下位群には有効だとか、即時性があるといった半面、思考力の成長を妨げる恐れがあるということで、そういったことをより有効な形で授業に生かしていければ、そこに対して踏襲する価値がある、というようになってくると思うのです。踏襲するだけの価値を見出せるような使い方をしていただき、授業に生かしてほしいというのが今の私の考えです。

瀧澤教育長

今の点について、新型コロナウイルス感染症が今後どのようなようになるか不透明ですが、教科書自体が、国の方でデジタル教科書にシフトしていこうという計画もございます。それから、今整備しているiPadも、今は子供たちに貸す、という形で、決して一人一人にあげているわけではないのですが、ずっと先の将来では、小中学校で使う必須の教材の一つとして、例えば今は、入学時に算数セットや鍵盤ハーモニカを購入いただいておりますが、そのように自分のものとして端末を購入して、そこにすべてのデジタル教科書が入っていて、家に持ち帰って予習したり復習したりできるという、かなり先にはそういう時代が来るのではないかと思います。今、即、各家庭でiPadを購入してくださいというのは難しいと思うのですが、今、ゆりが丘小学校で28年度から5年使用していますが、ほとんど壊れたという話は聞かないので、当面は今回のGIGAスクール構想の財産を生かして取り組んでいきたいと思っています。

山田市長

ありがとうございます。

では、浅野委員をお願いします。

浅野委員

iPadを持ち帰ることについてはまだということでしたが、今回の新型コロナウイルス感染症のような急な休校となったときには、持ち帰りができれば課題等がiPadでもらえてよかったのかな、と思うので、持ち帰りができるといいな、と思うのと、小学生も中学生も通学のカバンが、教科書が大きくなったりして相当な重さがあり、健康についてもいろいろと言われているので、置き勉というのでしょうか、教科書は学校に置いておいて、自宅ではiPadを利用するなど、荷物を軽くできるといいのではないかと思います。

山田市長

下校途中で落として、壊れたりすることがないといいですが。

浅野委員

そういうことがないように約束を決めることになると思いますが、体への負担を減らせる
といいのではないかと思います。

山田市長

教科書、ランドセルの重さの件は、他でも意見が出ておりました。今の件はいかがでしょう
うか。将来的な話でもいいのですが。

鈴木理事兼学校教育課長

持ち帰りについては現在検討中です。いろいろな視野から検討する必要がありますので、
家庭環境もありますが、今各家庭のインターネットの環境について調査をしております。

山田市長

想定ではネット環境がない家庭は7%ぐらいでしたか。

鈴木理事兼学校教育課長

実は、小学校・中学校が重複した数値でしたので、現在、重複が無いように詳細に調べて
いるところです。

山田市長

わかりました。では、この件についてはもう少しご検討ください。
佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤職務代行委員

先ほど洞口委員さんから提案いただきました、メッセージとか、ノートの写しを共有する
とか、授業そのものを同時中継で発信するとか、そういうものはすべて人が要ることなので、
そういうことを考えると・・・

山田市長

人が要るとは。

佐藤職務代行委員

送信するには、必ず2人以上の人が要ります。大学でも両方できるようにしなさい、とい
う学校もありますよね。キャンパスに来て授業を受けたい子もいるし、コロナが怖い子は自
宅でリモート授業を受けられるようにする、それを何とか対応しなさい、となっていて、
講師一人に言われても、対応が難しいということもあるので、人手ということも考慮しなけ
ればならないと思います。

また、iPadは最初の目標は、子供たち一人一人が自在に操作できる、というのが大事

になってくると思います。このような活用もできるということは、操作を分かった上で、ということが大事で、その上で、自分が発信したいものは何で、そのためにどのようなデータが欲しいのか、そのような形でプレゼンテーションへ向かって行くというように、まずは伝えたいものを持つというような授業ができればいいと思います。

山田市長

そうなる、生徒だけではなく、先生たちの課題ともなりますね。その他、GIGAスクール構想で何かありますか。

教育長、まとめはありますでしょうか。

瀧澤教育長

課題はいろいろあると思います。委員さんからも出されたように、家庭に持ち帰るという事については、内部でもいろいろと検討していますし、先ほどの資料にもあったように、貸し出し用のWi-Fiルーターも740台準備はしていますが、通信料をどうするのか、など、その辺の細かい点をこれから検討して行って、家庭に持ち帰り使えるような環境は整えたいと思っております。ただし、学校で使うのが基本であり、家でも使えるという形になると思います。また、今委員さんからも出た、不登校の子への対応とか、使いこなした上で、子供たちの、「発信したい」という思いを大事にしながら使っていくとか、ランドセルの重さの件などもいろいろ出ましたので、今後学校教育課と検討しながら、有効に使っていきたいと思います。

山田市長

わかりました。ぜひそのように進めていただきたいと思います。

では、以上で(1)を終了させていただきます。

次の議題に移りますが、出席者入れ替えのため暫時休憩します。

(出席者入れ替え)

山田市長

次に、(2)下増田公民館と下増田児童センターを合築のうえ移転改築することについてを議題といたします。資料に基づき、事務局より説明をお願いします。

大澤生涯学習課長

それでは、お手元にお配りしております資料に基づき、説明させていただきます。

資料1ページをお開き願います。

冒頭の「はじめに」では、ご説明にあたっての3つのポイントを示しております。

一つ目は、下増田公民館と下増田児童センターを合築のうえ複合施設とすること。二つ目は、移転改築、新築とし、位置を下増田小学校校庭の一部を含む西側とすること。そして、

三つ目は、目標として、新施設開館時期を令和5年5月とすること、です。

以上、3つのポイントについて、項目ごとにご説明いたします。

初めに、1計画検討概要についての(1)検討経緯です。

下増田地区は、大規模な宅地開発とともに人口が急増し、現在の公民館が開館いたしました昭和56年当時に比べ、人口が約3倍に増加しております。さらに、下増田公民館は、市内11館の中で最も狭隘な公民館であり、利用者の要望に応え難くなっている現状であります。加えて、開館から39年を経過し、老朽化による大規模な修繕について今後課題となってくるものが予想されます。

一方、下増田児童センターにおいても、利用児童数の増加に伴い施設が手狭になっている状況です。

また、公民館と児童センターの合築については、行政区長懇談会の席において、下増田地区区長会から提案がなされたということもあり、担当課である生涯学習課と子ども支援課において内部協議を進めてまいりました。複合化のメリットとデメリット等について検討協議を行った結果、合築及び複合施設化を推進する考えに至ったものであります。

1枚めくっていただきまして、2ページには、下増田地区の人口推移、市内公民館の延べ床面積、市内児童センターの延べ床面積を記載しています。

米印4の公民館と児童センター合築によるメリットとデメリットをご覧ください。

合築のメリットといたしましては、建設費の低廉化や世代間交流の促進、また、それに伴う見守り効果、協働事業や施設の共用等が見込まれております。デメリットにつきましては、開館時間の違いや諸室の構成、運営方法をあらかじめ調整したり、維持管理に関する区分を事前調整する必要があります。これらの点につきましては、事前に十分担当課間で協議を進めておくことで解消を図っていきたいと考えております。

次に、資料3ページをご覧ください。(2)位置(用地)案についてであります。

新施設の移転予定地につきましては、下増田小学校校庭西側の市有地であります美田園第三仮設住宅跡地と現下増田小学校校庭の一部を合わせた約6,300㎡を想定いたしております。移転することによるメリットとして、現施設を運営したまま建設工事が行えることや、児童センターへの来館について、道路を横断することなく安全に来館することができるようになります。

なお、この計画において校庭が約10,000㎡になりますが、文部科学省小学校設置基準を満たしていることから、問題はないものと考えています。

次、1枚めくっていただいて4ページは、現施設の位置を赤色、移転先を薄緑色、移転後の校庭部分を黄色で着色し、図示したものであります。

次に、資料5ページ、(3)施設整備の概要案の①名称につきましては、それぞれ、「下増田公民館」、「下増田児童センター」で考えておりますが、両施設を示す愛称などが必要かどうかは、今後、地域のご意見をいただいきたいと考えております。

②延べ床面積は、公民館が、約1,000㎡、児童センターが約800㎡の計1,800㎡前後を考えております。

③構造は、鉄筋コンクリート造2階建てを想定しており、エレベーターの設置、災害時対

応機能のほか、児童センターとの共有の交流スペース、園庭、駐車場などを考えております。

④諸室構成ですが、公民館の各部屋につきましては、ホールや研修室等、ほかの公民館を参考に、詳細につきましては、地域の方々の意見を参考にしながら検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、施設は一部共用スペースを設け、効率的に共用できるよう設計時に配慮したいと考えております。

次に、(4)下増田公民館建設検討会（仮称）は、地域の方々からご意見をいただく場として開催し、皆様からのご意見を踏まえ、基本的な考え方を年度内にまとめ、次年度の実施設計につなげていきたいと考えております。なお、この検討会には、公民館運営協力委員の方々を初め、子育て世代やPTA関係者等の参加をお願いするほか、幅広く誰もが意見を言える「場」づくりに配慮したいと考えております。

最後、資料6ページをご覧ください。2工程（スケジュール）についてです。

地区検討会については、12月から3月まで5回から6回の開催を予定し、第1回目は12月中旬以降に開催したいと考えています。令和3年度に実施設計、令和3年度半ばごろ、地区検討会で実施設計案の説明を行い、令和4年度に建設工事に入ります。建設工事期間中には、現場見学や内覧を行いながら、条例改正等を踏まえ、令和5年5月の新施設開館を目指したいと考えております。

説明は以上です。

山田市長

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項があればお願いします。

これは、長年の懸案事項でありましたが、ようやく取り組むこととなります。

よろしいでしょうか。

今回は、公民館と児童館という複合施設になります。複合施設ということについて、ご意見なりご感想があればお聞かせいただきたいと思えます。

佐藤委員お願いします。

佐藤職務代行委員

私が増田中学校に赴任したのは昭和60年です。その頃は、下増田小学校の児童数は100人ぐらいでした。その頃から比べても全然違います。あの辺りがあのように変化するとは思っていませんでしたが、赴任していた時にはもう公民館ができていたのだと考えると、やはりもう手狭で、早く新しいものができてほしいと思えます。

あとは、子供は地域の宝ですので、大人との複合施設なので、ともに活動していく場面がたくさんあるような運営の仕方を工夫していくといいのではないかと、楽しみにしております。

山田市長

多世代というか、小さなお子さん連れから高齢者まで含めて、交流できる、そんな拠点に

なればいいと考えております。

浅野委員

以前公民館に勤めさせていただいたことがあり、その頃から公民館と児童センターが隣だったらいいのに、と思っておりましたので、このように一緒になるということは良かったと思っております。今、地域 学校協働活動で地域と子供の交流が行われておりますが、このような施設があればもっと交流活動が活発になるのだろうと、うらやましく思っております。

山田市長

デメリットとして、諸室の構成、運営方法ということで挙げられていますが、このあたりの整理は今からだと思いますが、どうなのでしょう。生涯学習課とこども支援課と話をさせていただいて、何とかうまく収まる感触はあるのでしょうか。

大澤生涯学習課長

具体的に何度かこども支援課とも話をしておりますが、施設の造りを工夫したり、そのようなことも今後考えていく事項かと思っております。また、児童センターは指定管理でお願いしているということですので、そういったことも含めて検討しております。

山田市長

今後は地域での検討会には、子供子育て関係の方も当然に入っていて、話し合いを進めていくということによろしいでしょうか。

加藤こども支援課長

会議のメンバーに、親の会の会長さんや、館長さんも含まれております。

山田市長

そういった方のご意見を踏まえて進めていくということですね。分かりました。そういったことで、最初にお話ししたとおり、市の方針として、公民館と児童センターを合築のうえ複合施設とすることと、下増田小学校の校庭西側を一部含めて、移築・新築とすること、それから、令和5年5月に開館をすることを市の大方針としてこれから説明していくことになると思います。今後の進め方も含め、課題やご意見・ご要望があればお伺いしたいのですが、特に、公民館・児童センターの機能以外の部分で、例えば避難所としての機能もありますし、下増田・美田園地域の活性化にどう資するかということもあると思いますが、ご意見等あればお願いします。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

地域全体が、今は自分さえよければいい、というような傾向もあります。今は核家族が増えている一方、一人暮らしの高齢者もおります。美田園も変わりましたので、そういう方々もいらっしゃいます。そういう方々が、公民館と児童センターを一緒にするにあたって、高齢者の方が小さなお子さんを見る環境を作ってくれるということは大変喜ばしいことだと思います。これはメリットです。また、新聞等で青少年の事件が報道されておりますので、そのような環境も地域の課題として、公民館がより一層、そういったことを防ぐような何か取り組みができればいいかと思えます。

また、ちょっと視点が変わりますが、下増田公民館には、昔から、初代阿刀田村長の石碑があります。そちらの石碑をどのようにするのか聞きたいと思っておりました。50年ほど前に、今の場所に運んできたのですが、今後はどうするものなのでしょうか

山田市長

阿刀田村長の石碑については、今のところどのように考えているのでしょうか。

大澤生涯学習課長

街並みは今、大変新しいのですが、下増田公民館は歴史が古い公民館と認識しております。当然、そのような歴史的な財産も、移設することになるかと思えます。そのようなことも含めて、引き続き協議していきたいと考えております。

山田市長

地域の声を聴きながら進めていただきたいと思います。ありがとうございます。他にありませんでしょうか。

荒井委員

私は街が新しくなってから来たのですが、これから下増田の街並みも成熟していくのだらうと思えます。成熟に伴って、子供の数がだんだん落ち着いてくるのであらうと予想しています。そうなると、今の段階で児童センターの持ち分がこちらで、公民館がこちらで、と、きっちり分けるのではなく、将来の需要の変動に伴ってフレキシブルに使えるような形をするのがいいのではないかと思いました。

山田市長

将来を見据えたフレキシブルな造りはどうか、ということですね。ありがとうございます。他にありませんでしょうか。

瀧澤教育長

私が教育長になって間もなく、下増田公民館にお邪魔したときに、今の副市長の我妻館長から、何度も改築をお願いされていたので、やっと実現ができてほっとしているところもあります。ただし、市全体では、館腰公民館もありますし、全体を見ながらやっていかなけれ

ばならないとは考えております。先ほど委員さんからも出されたように、私も複合であることのメリットを生かし、デメリットを最小限にできるような取り組みがこれから大事だと思っておりますが、複合のメリットとして、先ほども出た地域学校協働活動とか、場合によっては放課後子供教室のような、言ってみれば、学校と公民館と児童センターが一つのエリアにあるというのはあまりないと思いますので、その良さをうまく生かしていけるような取り組みを、ハードができた後にソフト面を充実していく必要があると思っております。2つの施設ですが、1たす1が3になればいいのですが、語弊があるかもしれませんが、大きな学校は教頭先生や事務の先生、養護の先生は2人なのです。2人いれば2倍以上になるかということ、場合によっては1人の方がうまく行くというケースもあります。単に2つが一緒になったというだけでは、児童センターも公民館もお互いに使いづらいな、独立していた方が良かったな、となってしまうと、良さを生かせなくなるので、先ほど荒井委員さんからも出ましたが、共有部分をどのようにしていくか、ある程度独立性を保った中で共有部分をどのようにしていくのか、きちんと考えることと、ソフト面でも、その辺をきちんと話し合っておいて、要は両方の施設を運営する人の問題になってくるのかとは思いますが、その辺も教育委員会としては、こども支援課、健康福祉部さんと十分に話し合いをしていきたいと考えております。

山田市長

その辺はしっかりとお願いします。独立性を保つ部分と共有できる部分、ソフト・ハードともしっかりとやっていただきたいです。

皆様から他にありますかでしょうか。

ないようですので、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思っております。

総合教育会議はこれまでとさせていただきます、以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますかでしょうか。

大友教育部次長兼教育総務課長

特にございませぬ

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

大友教育部次長兼教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第12回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻
午後 2 時 40 分